

生物多様性国家戦略見なおしについての意見をお送り致します。

平成14年1月30日

匿名（男性、北海道在住）

全体的には、

- ・漁業や林業など経済活動とのより具体的な整合制にまで踏みこむべき。
- ・「生息環境」自体の確保、保全、再生が不可欠であるという要素が足りない。
- ・人材育成という要素がない。今あるもの（学識経験者、NPO）を使うだけではなく、これらもろもろの事を行うための人材を育成するという要素も必要。
- ・ゴミ、産業廃棄物との関係もどこかで必要なのでは。
- ・より具体的表現、平易な文章にならないか

部分的には、

- 第1部 第4節 2：海洋という地域分けは必要ないか
- 第2部 第2節：保護地域同士のつながりが必要、緑の回廊、グリーンベルトなどの言葉を具体的に入れる。
- 第3部 第1節 1（5）：観念的過ぎ、再構築するもの、し方を具体的に記述すべき
2（3）：アジア地域に限定する意味が良くわからない。
- 第2節 1（1）：自然優先は良いが、日本の公園制度の場合、現実にはむしろ奥山で限定利用など、明確な利用という言葉と利用方法が必要。同じに生活圏の扱いをどうするのかも必要で、これら現実問題に触れないと机上の理想論で終わってしまう可能性が高い。
（3）：「緑地」「多様な緑地」
- 第3節 1：（1）と同じ理由で、ここでも人間の生活圏との整合制を示す言葉が現実には必要。
3：第2部 第2節と同じで、保護地域間をつなげる具体的言葉がほしい。
4：経済活動（漁業、林業など）との位置付けを明確に。
5：生息環境自体の保全という言葉が必要
海生哺乳類はジュゴンだけで良いか、北海道とロシアで問題のトドは、シマフクロウやトド、アザラシ、イルカ、クジラなどは魚食であり漁業と直に関わるため、魚類の位置付けも漁業という産業活動と共に明確にすべき。上記のための関係省庁連携がここでもこそ必要。猛禽類、海生哺乳類、で特に、蓄積される有害物質や遺伝子かく乱物質をどうするか。
（4）：ここでも7とは別に調査研究、モニタリングが不可欠。
（5）：病気やウイルス、ペットの移入対処法を具体的に記述した方が良いのでは。
7：大学などの研究機関は組み入れなくて良いか。最終行の「整備」は、何をどう整備するのかわからない、具体的に。
10：何かと話題になる世界遺産条約についても入れるべきでは。
2国あるいはそれ以上間を行き来する鳥獣についても、新たな国際的取り組みが必要ではないか。例えばトド、アザラシなど海生哺乳類、多くの渡り鳥など

以上、よろしくお願い致します。